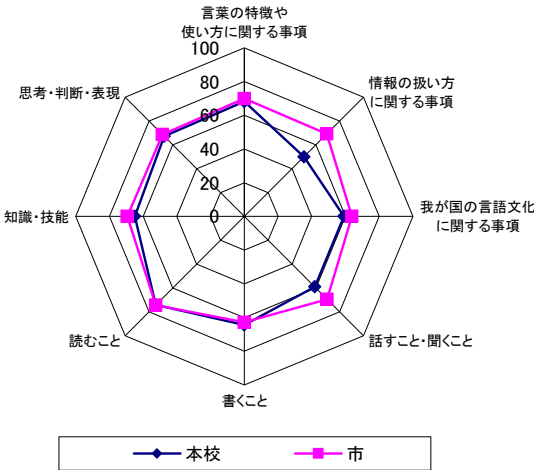


宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.2	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	50.0	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	59.1	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	59.1	69.5	71.5
	書くこと	64.4	62.8	67.1
	読むこと	74.2	74.4	73.7
観点別	知識・技能	64.9	69.4	71.9
	思考・判断・表現	67.3	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

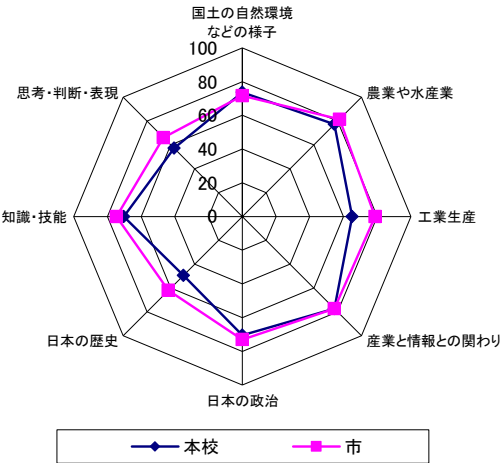
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・市の平均正答率を1.7ポイント下回っている。 ○漢字の読みや敬語を理解し正しく使う問題では、市の平均正答率と同程度で、尊敬語・謙譲語共によく理解されている。 ●漢字を書く問題では、全般的に市の平均正答率を下回っており、漢字の読み、書きともに知識を増やすことが課題と考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字に関しては家庭学習等で積極的に漢字練習に取り組ませたり、定期的に小テストを行ったりして、理解を深めるようにする。 ・語彙力の育成として読書や辞書の積極的な活用を行うようにする。
情報の扱い方 に関する事項	・市の平均正答率を19.2ポイント下回っている。 ●説明文の内容から「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書いている」問題では、内容理解が不十分であったり、無回答である児童の割合が多かったりしており、内容の把握が課題である。	・内容から読み取ったことを書くことに関しては、社会科などの教科と関連を図り、言語化や読み取った情報を文章に書くことを繰り返し学習する場を設けるようにしていく。 ・意見文や投書、報告文など、相手や目的に応じた文章を書く機会を多く設け、効果的な表現方法を身に付けさせた上で、よりふさわしいものを選択できるように引き続き指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	・市の平均正答率を4.7ポイント下回っている。 ●語句の由来の理解を深めることが課題である。	・新出漢字の学習や既習漢字の復習の際に、漢字の読み方が和語なのか漢語なのかを繰り返し問い、理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	・市の平均正答率を10.4ポイント下回っている。 ●放送の話の内容を捉えたり、話の意図に応じた質問を考えたりする問題では、市の平均正答率を下回っている。	・校内放送・教師の話・グループ活動などで、普段から話の意図は問い返すことを教師が意識して引き続き続けていく。 ・話し合い活動では、議論する内容について要旨をまとめて話すよう司会者に指導したり、他者の意見の内容をしっかり受け止めてから自分の意見を述べるよう促したりするなどして、内容の理解を図っていく。
書くこと	・市の平均正答率を1.6ポイント上回っている。 ○指示された事柄について指定された長さで書くことや段落の役割を理解して2段構成で文章を書く問題や予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の平均正答率を上回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。	・学習の振り返りや日記指導などをこれまで通り継続して行い、書式や段落に合わせた文章が書けるよう指導を継続していく。 ・社会や総合的な学習の時間などのまとめなどで書いたものに関しては、互いに読み合う活動も取り入れ、より簡単で分かりやすいまとめの文章が工夫して書けるよう指導していく。
読むこと	・市の平均正答率と同程度である。 ○登場人物の心情について、描写をもとに捉えたり、説明文の論の進め方を的確に捉えたりする問題では、市の平均正答率を上回っている問題がほとんどである。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。	・物語文に関しては、物語文の授業の中で、叙述からどんな心情が読み取れるかなど、感想を書いたり、児童間で意見交換したりするなどの学習活動をこれからも積極的に取り入れていく。 ・説明文の学習で、学習の最後のまとめで分かったことや筆者の願いなどを短い文章でまとめることや、調べ学習で分かった結論を短くまとめて話す機会を意図的に展開していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.6	71.6	67.5
	農業や水産業	77.3	81.5	82.1
	工業生産	65.2	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	77.3	77.2	68.2
	日本の政治	70.5	73.1	77.9
	日本の歴史	49.4	62.0	65.8
観点別	知識・技能	70.3	74.6	74.5
	思考・判断・表現	57.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

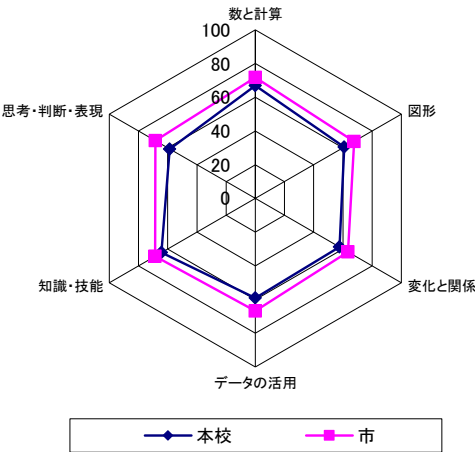
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・市の平均正答率を2ポイント上回っている。 ○「自然災害から生活を守る設備(防潮堤)について理解している。」の校内正答率は90.9%と、市の平均正答率を5.3ポイント上回っている。 ●世界の中の国土に関する設問では、海洋名や国の位置、河川の名前と場所を問う問題における正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳を活用し、周辺の海洋や世界の主な国の位置、日本の国土について取り扱うようにする。 ・海洋名や国旗などは、練習問題を活用して繰り返し学習の場を設けることで、知識の確実な定着を図る。 ・世界地図や日本周辺の国や様子が分かる掲示物を常時掲示し、折に触れて話題にするなど、学習内容が定着するような工夫をする。
農業や水産業	・市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。 ○「都道府県の位置と農産物の産地をもとに、適切な地図を判断している。」の校内正答率は、いずれも市の平均正答率を上回っている。 ●「カントリーエレベーターについて理解している。」の校内正答率は市の平均正答率を18.9ポイント下回っている。	・教科書や資料集を活用し、図やグラフ等の資料を読み取る機会や読み取った内容を自分の言葉で伝える機会を多く設けていく。 ・授業の際に資料集などを活用し、稲作の作業工程について触れることに加え、稲作体験の際に、収穫された米のゆくえについても再度確認することで、理解を深められるようにする。
工業生産	・市の平均正答率を13.5ポイント下回っている。 ●日本の工業生産について問う設問においては、全ての問題において市の平均正答率を大幅に下回っている。	・輸送手段の特性についてそれぞれのメリット、デメリットについて考える活動を取り入れるなど、ある事象について多角的な視点から考え、思考を深められるような授業を展開していく。 ・地図帳や資料集を活用して、資料を正確に読み取る力を付けられるようにする。
産業と情報との関わり	・市の平均正答率を同程度である。 ○「メディアの特徴を理解している」の校内正答率は90%を上回った。 ●「資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断している。」の校内正答率は市の平均正答率をわずかに上回ったものの、63.6%と低い。	・調べ学習を通して情報が社会の様々な場面で活用されていることを理解することに加え、どんな活用方法が考えられるか意見交換することで、情報を活用する力を伸ばしていけるようにする。
日本の政治	・市の平均正答率を2.6ポイント下回った。 ○「日本国憲法について理解している。」の正答率は市の平均を9.8ポイント上回った。 ●「図に着目して、国民による政治の仕組みを理解している。」の正答率は、市の平均正答率を22.7ポイント下回った。□	・公民的分野の言葉は児童にとって聞き慣れないものも多いため、資料集や社会科教育番組を活用して、内容をより分かりやすく伝えられるようにする。
日本の歴史	・市の平均正答率を12.6ポイント下回った。 ○「奈良時代の資料に着目して、日本の文化に遣唐使が与えた影響を考え、表現している。」の正答率は、市の平均を1.1ポイント上回った。 ●歴史的分野の平均正答率は多くの項目で市の平均を下回る結果となった。特に「15世紀から17世紀のできごとについて、適切な見出しを判断している。」の正答率は、市の平均を28.1ポイント下回った。	・教科書の内容の暗記に留まることなく、背景にあった出来事や社会の情勢等も踏まえ、歴史的事象を多面的に捉えられるよう資料提示や活動内容を工夫する。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.9	71.8	76.2
	図形	60.9	67.7	67.8
	変化と関係	57.6	63.4	62.7
	データの活用	59.1	66.7	61.5
観点別	知識・技能	64.3	68.6	70.7
	思考・判断・表現	58.6	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

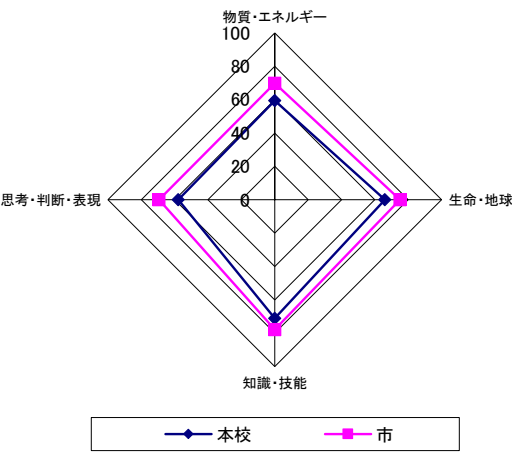
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市の平均正答率を4.9ポイント下回っている。 ○「2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。」では、市の正答率を7.9ポイント上回った。 ●「真分数+真分数＝仮分数(帯分数)で、分母どうしをかける通分をする計算ができる。」では、市の正答率を25.3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な四則計算については分数や小数の計算に課題が見られる。そのため、基本的な計算の技能を確実に身に付けられるよう習熟を図る。 ・整数に限らず小数や分数でも数の関係を正しく把握できるように、図や数直線に表すなど、学習内容の理解を深めるような学習過程を積み重ねて、既習事項の定着を図る。
図形	・市の平均正答率を6.8ポイント下回っている。 ○「直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる」では、市の平均正答率を3ポイント下回ったものの、全国の前年正答率を5.4ポイント上回った。 ●「三角柱の展開図を組み立てたときに重なる辺の長さを理解している。」では、市の平均正答率を14.2ポイント下回った。	・面積や体積についての基礎的な知識については全体的に課題が見られる。各図形の公式がなぜそのようなになっているのか根拠を確認してから、練習問題に取り組ませるようにする。 ・対称な図形や合同な図形、立体についても半具体物の操作などを取り入れながら理解が深まるようにする。
変化と関係	・市の平均正答率を5.8ポイント下回っている。 ○「速さの単位の間隔を理解し、時速を秒速や分速に直すことができる。」では、市の平均正答率を3.8ポイント上回った。 ●「図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察している。」では、市の平均正答率を25.5ポイント下回った。	・単位量当たりの大きさを求めて、2つの値を比較することについて課題が見られる。求めた値が意味しているものを理解できるように数直線を活用したり、繰り返し問題に取り組む場を設けたりする。 ・文章問題を解く際には、与えられた図や数量などの条件から、立式する習慣づけを図る。
データの活用	・市の平均正答率を7.6ポイント上回っている。 ○「ドットプロットから中央値を読み取ることができる。」では、市の平均正答率を12.3ポイント下回ったものの、全国の前年正答率を2.2ポイント上回った。 ●「値に0がある連続量の平均を求めている。」では、市の平均正答率を12.1ポイント下回った。	・折れ線グラフやヒストグラム、ドットプロットを読み取る問題はよくできている。他教科と関連を図りながら、数量の変化や大きさ等を正しく読み取る力の向上に努める。また、考えの根拠を明確にし、答えの正当性について話し合う授業の展開を積み重ね、理解を深める。 ・平均を求める問題では、0を含む場合の計算のしかたに課題がある。平均の定義を再確認し、習熟を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.4	69.9	67.8
	生命・地球	66.1	75.1	73.7
観点別	知識・技能	71.1	77.8	78.4
	思考・判断・表現	57.8	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均正答率を10.5ポイント下回っている。 ○ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推測することができ、知識の活用ができています。 ●実験結果から条件を変えたふりが1往復する時間を推測する設問や同じ量の食塩とヨウバンを、水に加えた時の溶けかたがわかる設問、二酸化炭素が増えたことを石灰水を用いて調べることを指摘する設問に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・関連する単元や内容を扱う際には、観察や実験の結果を振り返ったり、事象の根拠を確認したりすることで、結果や使用する道具、薬品など思い起こさせ、繰り返し知識の定着を図る機会を設ける。
生命・地球	・市の平均正答率を9ポイント下回っている。 ○きを縦に切ったときの断面の、水の通り道のような理解や動物の食べ物のもとをたどると、植物に行きつくことや食物連鎖についての理解ができています。 ●目的に合った対照実験を計画できる設問や実験の結果から呼吸のはたらきを記述できる設問に課題が見られる。	・対照実験については、条件は1つだけ変えることや何を見るための実験か意図を捉えさせ確認することで、理解の定着を図る。 ・結果の考察やまとめについては自分の言葉で記述する機会を必ず設け、考えを文字で表現する機会を増やす。 ・動物や植物のからだのつくりやはたらきについては、直接目にすることができないものが多いので、図や動画を利用して視覚に訴えることで確実な定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着と家庭学習の習慣化に向けた取り組み	①漢字力・計算力向上のための指導の工夫を行っている。 ②「家庭学習強化週間」を設け、保護者とともに家庭学習の習慣化に取り組んでいる。	・児童質問紙の結果から、家庭学習に関する質問に対する肯定的割合は、市や県の平均より高い結果であることが分かった。また、テストの間違い直しへの取組や、計画を立てて家庭学習に取り組むことについても結果が高い。児童の実態を踏まえて、家庭学習の充実に努めたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・各教科における基礎基本の確実な定着を図るため、朝の学習の時間を活用するなどして、複数体制による指導の充実を図っていく。また、授業内においても学んだ知識を活用して考える練習問題を意図的に設定したり、個に応じた補充学習ができるような授業展開にするなど児童一人一人にとって取り組みやすい学習の場を設定していく。

・基本的な問題だけでなく応用問題や記述問題などに取り組むとともに、自分の考えをまとめたり、思考過程を文字で記述する機会を確保し、様々な問題の形式に慣れることができるようにする。そのために、自分の考えを書くために必要な視点（順序・目的・構成など）を押さえて指導する。

・市の児童質問紙の結果から、「一日にどれくらい本を読んでいますか。」の問いに対する肯定割合は、学校のある日は高いが休みの日は低い結果となっている学年がほとんどであった。学校では、朝の「どっぷり読書タイム」やボランティアによる読み聞かせ、さらに1週間に一度は学級全員が図書室を利用して読書の時間を設けている。一方、家庭でも定期的に「ファミリー読書（家読）」を依頼してきたが、家庭における読書時間の個人差は大きい。今後も継続して、家庭との連携を図りながら、学校全体で読書の推進に努め習慣化を図りたい。

・「学習と生活についてのアンケート」の結果において、肯定回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。